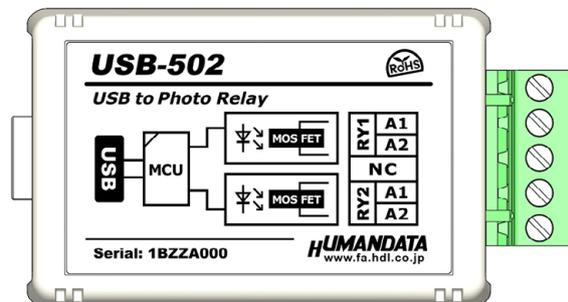


USB Photo リレー (コンパクト)



USB-502
ユーザーズマニュアル
Ver.1.2



ヒューマンデータ

目次

● はじめに.....	1
● ご注意.....	1
● 改訂記録.....	1
1. 製品の内容について.....	2
2. 各部の名称.....	2
2.1. 電源.....	3
2.2. 銘板(ブロック図).....	3
2.3. 出力コネクタ.....	3
3. 仕様.....	4
3.1. 一般仕様.....	4
3.2. 別売りアクセサリ.....	5
3.3. 外部配線時の注意事項.....	6
4. デバイスドライバのインストールについて.....	6
5. 制御コマンドの概要.....	7
5.1. 制御シーケンス.....	7
5.2. 制御コマンド一覧.....	8
5.3. 動作チャート.....	12
5.4. エラーコード一覧.....	14
5.5. テストアプリケーションによる動作確認.....	14
5.6. 通信ソフトウェアによるコマンド確認例(Windows編).....	15
5.7. 通信ソフトウェアによるコマンド確認例(Linux編).....	16
6. 使用例.....	18
6.1. RY1、RY2の両方を使ってウォッチドッグ監視をする.....	18
6.2. RY1のみを使ってウォッチドッグ監視する.....	20
7. サポートページ.....	21
8. 添付資料.....	21
9. お問い合わせについて.....	21

● はじめに

この度は、USB-502 をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

USB-502 は、光 MOSFET を採用した 2 つの半導体リレーを搭載し、簡単なコマンドにより USB からリレー接点を制御することができます。またシステム監視用の専用コマンドを使うことで、ウォッチドック出力接点としても利用することができます。

どうぞご活用ください。

● ご注意

 禁止	1 本製品には、民生用の一般電子部品が使用されています。宇宙、航空、医療、原子力等、各種安全装置など人命、事故にかかわる特別な品質、信頼性が要求される用途でのご使用はご遠慮ください。
	2 水中、高湿度の場所での使用はご遠慮ください。
	3 腐食性ガス、可燃性ガス等引火性のガスのあるところでの使用はご遠慮ください。
	4 基板表面に他の金属が接触した状態で電源を入れしないでください。
	5 定格を越える電圧を加えないでください。

 注意	6 本書の内容は、改良のため将来予告なしに変更することがありますので、ご了承願います。
	7 本書の内容については万全を期して作成しましたが、万一誤りなど、お気づきの点がございましたら、ご連絡をお願いいたします。
	8 本製品の運用の結果につきましては、7. 項にかかわらず当社は責任を負いかねますので、ご了承願います。
	9 本書に記載されている使用と異なる使用をされ、あるいは本書に記載されていない使用をされた場合の結果については、当社は責任を負いません。
	10 本書および、回路図、サンプル回路などを無断で複写、引用、配布することはお断りいたします。
	11 発煙や発火、異常な発熱があった場合はすぐに電源を切ってください。
	12 ノイズの多い環境での動作は保障しかねますのでご了承願います。
	13 静電気にご注意ください。

● 改訂記録

日付	バージョン	改訂内容
2018/03/13	1.0	初版発行
2018/04/12	1.1	制御コマンド追加
2024/04/15	1.2	デバイスドライバは web サイトからのダウンロード形式に変更し、ドライバ CD の付属を廃止

1. 製品の内容について

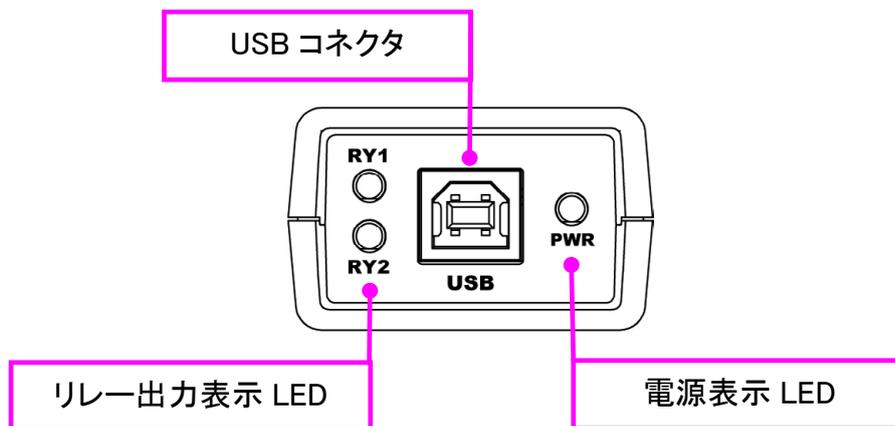
本パッケージには、以下のものが含まれています。万一、不足などがございましたら、弊社宛にご連絡ください。

USB Photo リレー(コンパクト) USB-502	1
USB ケーブル 1.8m 長	1
マニュアル(本書)	1 *
ユーザー登録のご案内(はがきサイズ)	1 *

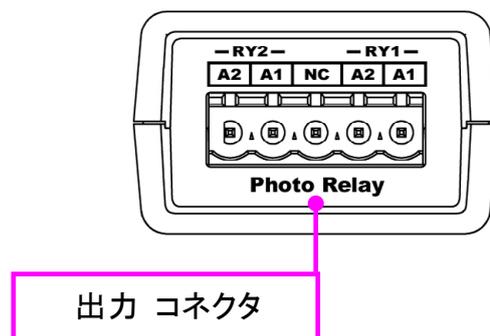
* オーダー毎に各1部の場合があります。(ご要望により追加請求できます)

2. 各部の名称

USB 側パネル



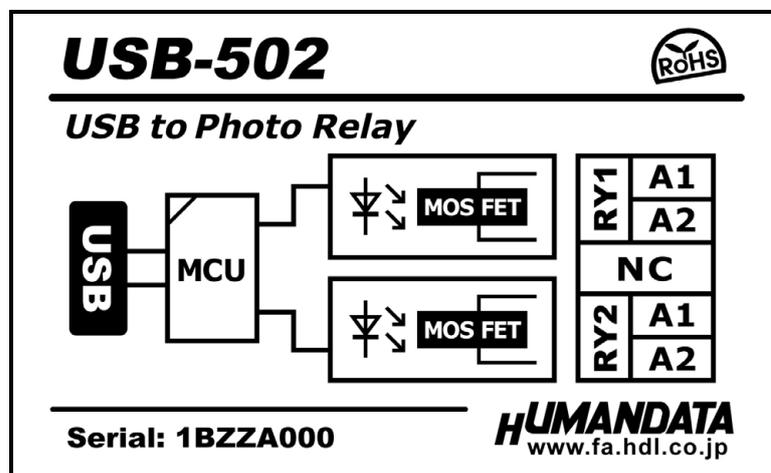
リレー出力側パネル



2.1. 電源

電源は、USB 経由でパソコンより供給されます。

2.2. 銘板（ブロック図）



2.3. 出力コネクタ

	信号	意味
	RY1-A1	リレー-1
	RY1-A2	A接点
	-	NC
	RY2-A1	リレー-2
	RY2-A2	A接点

使用コネクタ: フェニックスコンタクト製 1757048
 適合電線: AWG24(0.2sq) ~ AWG14(2sq)

3. 仕様

3.1. 一般仕様

項目	内容	備考
製品型番	USB-502	
電源	DC5V/70mA 以下 USB ケーブルより供給	
ホスト I/F	USB2.0 準拠 (Full Speed 対応) USB-B コネクタ	・USB1.1 でも使用可能 ・ESD 保護 ±11KV
出力コネクタ	5 極端子台	フェニックスコンタクト社 型式 1757048
リレー型式	AQV215SZ 2 個	Panasonic 製
定格負荷	AC/DC 100V, 300mA	
動作時間	最大 2ms、平均 0.6ms	
復帰時間	最大 0.2ms、平均 0.06ms	
ON 抵抗	最大 4Ω、平均 2.3Ω	
搭載 LSI	汎用マイコン	
表示 LED	電源表示 LED リレー出力表示 LED x 2	
対応 OS	Windows 11/10/8.1/8/7	Linux、MacOS 対応は オプション
制御方式	仮想 COM ポートによる通信制御	
動作温度範囲	-20~60℃	結露等なきこと
動作湿度範囲	10~85% RH	
保存温度範囲	-20~60℃	
保存湿度範囲	10~85% RH	
耐ノイズ性	規定せず	
規格など	規定せず	
質量	約 50g	本体のみ
外形寸法	67 x 43.5 x 27 mm	突起物含まず

※部品は互換性のものに変更になる場合があります

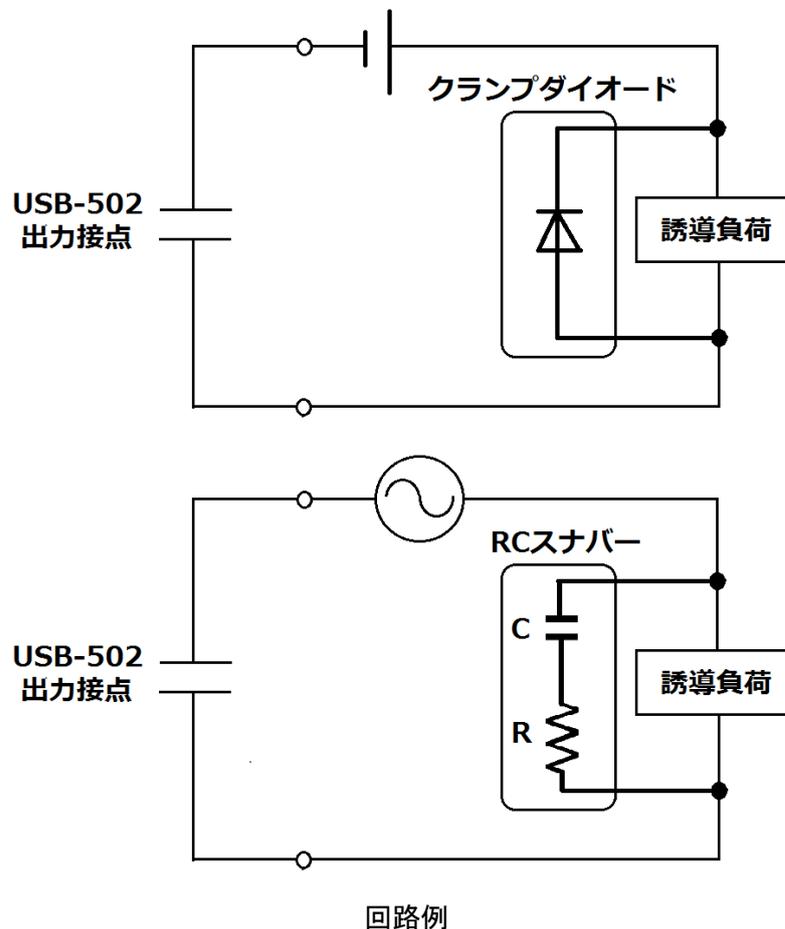
※サスペンド、スタンバイ、休止状態などの省電力機能には非対応です

3.2. 別売リアクセサリ

MODEL	画像	品名	備考
PEN-003		USB シリーズ取付具 ねじ止め用 JAN: 4937920800709	USB-502 取付用
PEN-003-DIN		USB シリーズ DIN 取付具 35mmDIN レール用 JAN: 4937920800716	USB-502 取付用 35mm DIN レール対応
PEN-003-MG		USB シリーズ用 マグネット取付具 JAN: 4937920801201	USB-502 取付用 強力なネオジウムマグネット
ACC-005		5P-RJ45 アダプタ JAN: 4937920800730	USB-502 の 5極端子台から RJ45 コネクタに 変換するアダプタです
TB-USB-5		着脱式端子台 5 極 JAN: 4937920800747	フェニックスコンタクト社 1757048
USB-AB-18FF		フェライトコア付 USB ケーブル A-B 1.8m 黒 JAN: 4937920801348	USB2.0 対応 AWG28/24 UL 黒

3.3. 外部配線時の注意事項

電磁弁などの誘導性負荷は、自己誘導現象により出力 OFF 時にサージ電圧(逆起電力)が発生します。これらの負荷を接続する場合、負荷と並列にクランプダイオードや RC スナバー回路等のサージ電圧に対する保護を行ってください。代表的な回路例を下記に示します。



4. デバイスドライバのインストールについて

本機は OS にはじめから含まれている CDC (Communication Device Class) ドライバを使用します。

- Windows 10 以降の場合 :
 ドライバのインストール不要です。
 「USB シリアル デバイス (COM*)」として自動的に認識されます。
- Windows 8.1 以前または
 Windows 10 以降で本機型番をデバイスマネージャ上に表示させる場合 :
 ドライバのインストールが必要です。
 デバイスドライバとインストールマニュアルについては、製品の資料ページからダウンロードすることができます。
 「7. サポートページ」の章を参照してください。

※CDC-ACM デバイスドライバが組み込まれた Linux ディストリビューションでは、ドライバを別途インストールする必要はございません。

5. 制御コマンドの概要

制御コマンドは「コマンド文字」、「シーケンスナンバー」、「パラメータ」、「エンドコード」で構成されており、カンマ「 , 」で区切られます。パラメータを指定しないコマンドもあります。

シーケンスナンバー{SQNO}は、任意の文字列で応答時に同じ文字列を返すことでコマンドと応答の対応を確認できます。(最大 5 文字)

制御コマンドには ASCII 文字を割り当てていますので、ターミナルからキーボード操作で動作確認が可能です。「コマンド文字」は大文字を使用してください。

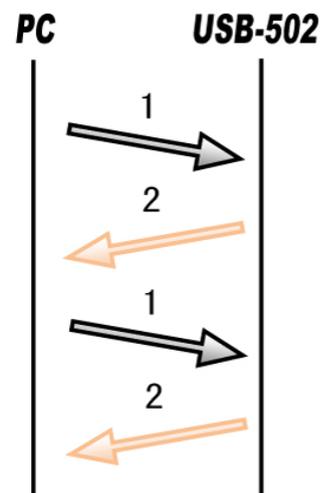
(例)

	コマンド文字 {CMD}	カンマ { , }	シーケンスナンバー {SQNO}	カンマ { , }	パラメータ {PRAM}	エンドコード <CR>
HEX	57h	2Ch	31h 32h 33h	2Ch	31h 30h	0Dh
ASCII	W	,	123	,	10	CR

5.1. 制御シーケンス

1. コマンドを PC から USB-502 へ送信します。
2. USB-502 はエンドコード<CR>の受信を確認し応答します。
PC はこの応答データを確認し、USB-502 に正しく送信されたかどうか確認します。
応答データについては次表のコマンド一覧を参照してください。

コマンドを連続して送信する場合、
先のコマンドの応答を確認してから次のコマンドを送信するようにしてください。



USB-502 からの応答が無い場合は下記の項目を確認してください。

- ・ USB-502 の電源が入っていない
 - USB ケーブルが正しく接続されているか確認する
 - 電源表示 LED の PWR の点灯を確認する
- ・ USB ハブなどにより分岐して使用している場合
 - 他の USB 機器が動作することで電源容量が不足するような事がないか確認する
 - PC と直接 USB-502 を接続して確認する

5.2. 制御コマンド一覧

	コマンド名	動作	書式
1	W コマンド	ウォッチドッグタイムアップ時間を設定	W,{SQNO},{PRAM}<CR>
2	R コマンド	ウォッチドッグ監視開始(RY1,2 動作)	R,{SQNO}<CR>
3	X コマンド	ウォッチドッグ監視開始(RY1 のみ動作)	X,{SQNO}<CR>
4	S コマンド	ウォッチドッグ監視停止	S,{SQNO}<CR>
5	T コマンド	ウォッチドッグ入力トリガ	T,{SQNO}<CR>
6	D コマンド	リレー動作設定	D,{SQNO},{PRAM}<CR>
7	A コマンド	自動復帰動作の設定	A,{SQNO},{PRAM}<CR>
8	B コマンド	自動復帰時間の設定	B,{SQNO},{PRAM}<CR>
9	C コマンド	自動復帰回数設定	C,{SQNO},{PRAM}<CR>
10	E コマンド	自動復帰回数到達後のウォッチドッグ監視停止設定	E,{SQNO},{PRAM}<CR>
11	1 コマンド	RY1 リレーの ON/OFF	1,{SQNO},{PRAM}<CR>
12	2 コマンド	RY2 リレーの ON/OFF	2,{SQNO},{PRAM}<CR>
13	5 コマンド	RY1 リレーの ON/OFF 状態取得	5,{SQNO}<CR>
14	6 コマンド	RY2 リレーの ON/OFF 状態取得	6,{SQNO}<CR>

それぞれのコマンドについて説明します。(シーケンスナンバーは”123”としています)

1. W コマンド(ウォッチドッグタイムアップ時間を設定)

書式		W,{SQNO},{PRAM}<CR>
機能		ウォッチドッグタイムアップ時間を設定します。 この時間内にウォッチドッグ入力トリガ(T コマンド)が受信されなかった場合リレーが動作します。
パラメータ設定範囲		1~6000(×100ms) (初期値:10)
使用例	送信	W,123,30<CR> //3 秒に設定する場合
	応答	OK,W,123,30<CR>

2. R コマンド(ウォッチドッグ監視開始 RY1,RY2 動作)

書式		R,{SQNO}<CR>
機能		ウォッチドッグの監視をはじめます。RY1、RY2 両方のリレーが動作します。スタートアップルーチンの処理などが終わり通常動作で監視をはじめるときにこのコマンドを送信します。 [リレー動作] ・D コマンドで OFF に設定している場合、RY1、RY2 が ON ・D コマンドで ON に設定している場合、RY1、RY2 が OFF
使用例	送信	R,123<CR>
	応答	OK,R,123<CR>

3. X コマンド(ウォッチドッグ監視開始 RY1 のみ動作)

書式		X,{SQNO}<CR>
機能		ウォッチドッグの監視をはじめます。RY1 のみ動作します。RY2 は2コマンドで任意に ON/OFF できます。スタートアップルーチンの処理などが終わり通常動作で監視をはじめるときにこのコマンドを送信します。 [リレー動作] ・D コマンドで OFF に設定している場合、RY1 が ON ・D コマンドで ON に設定している場合、RY1 が OFF
使用例	送信	X,123<CR>
	応答	OK,X,123<CR>

4. S コマンド(ウォッチドッグ監視停止)

書式		S,[SQNO]<CR>
機能		ウォッチドッグの監視を停止します。 [リレー動作] ・R コマンドで監視していた場合、RY1、RY2 が OFF ・X コマンドで監視していた場合、RY1 が OFF
使用例	送信	S,123<CR>
	応答	OK,S,123<CR>

5. T コマンド(ウォッチドッグ入力トリガ)

書式		T,[SQNO]<CR>
機能		ウォッチドッグ入力トリガでウォッチドッグタイマ値がリセットされます。応答時にリセットされた時のウォッチドッグタイマ値(ms)を返します。この値は最大 600000ms です。ウォッチドッグの監視が停止している時にこのコマンドを受信すると ER031 を返します。 [リレー動作] ・R コマンドで監視、D コマンドで OFF に設定している場合、RY1、RY2 が ON ・R コマンドで監視、D コマンドで ON に設定している場合、RY1、RY2 が OFF ・X コマンドで監視、D コマンドで OFF に設定している場合、RY1 が ON ・X コマンドで監視、D コマンドで ON に設定している場合、RY1 が OFF
使用例	送信	T,123<CR>
	応答	OK,T,123<CR>

<メモ> T コマンドは経過時間を知ることができることからアプリケーションの動作時間の計測に利用できます。

6. D コマンド(リレー動作設定)

書式		D,[SQNO],[PRAM]<CR>
機能		ウォッチドッグタイムアップ時にリレーを OFF または ON するか設定します。
パラメータ設定範囲		OFF 又は ON (初期値:OFF)
使用例	送信	D,123,OFF<CR> //タイムアップ時 OFF する場合 D,123,ON<CR> //タイムアップ時 ON する場合
	応答	OK,D,123,OFF<CR> //OFF に設定した場合 OK,D,123,ON<CR> //ON に設定した場合

7. A コマンド(自動復帰動作の設定)

書式		A,[SQNO],[PRAM]<CR>
機能		ウォッチドッグタイムアップ時にリレーを自動復帰させるか設定します。
パラメータ設定範囲		OFF 又は ON (初期値:OFF)
使用例	送信	A,123,OFF<CR> //自動復帰しない場合 A,123,ON<CR> //自動復帰する場合
	応答	OK,A,123,OFF<CR> //自動復帰しない設定にした場合 OK,A,123,ON<CR> //自動復帰する設定にした場合

8. B コマンド(自動復帰時間の設定)

書式		B,[SQNO],[PRAM]<CR>
機能		リレーを自動復帰させるまでの時間を設定します。A コマンドで自動復帰する設定になっている場合に有効です。
パラメータ設定範囲		1~6000(×100ms) (初期値:100)
使用例	送信	B,123,300<CR> //30 秒に設定する場合
	応答	OK,B,123,300<CR>

9. C コマンド(自動復帰回数の設定)

書式	C,[SQNO],[PRAM]<CR>	
機能	リレーを自動復帰させる回数を設定します。A コマンドで自動復帰する設定になっている場合に有効です。“0”に設定すると繰り返しとなります。	
パラメータ設定範囲	0~100 (初期値:1)	
使用例	送信	C,123,5<CR> //5 回に設定する場合
	応答	OK,C,123,5<CR>

10. E コマンド(自動復帰回数到達後のウォッチドッグ監視停止設定)

書式	E,[SQNO],[PRAM]<CR>	
機能	リレーの自動復帰動作が設定した回数に到達したときウォッチドッグ監視を停止するかどうか設定します。“ON”に設定すると自動復帰回数に到達後、USB-502 内部処理で S コマンドを実行します。リレーの動作状態は S コマンドの機能説明を参照してください。	
パラメータ設定範囲	OFF 又は ON (初期値:OFF)	
使用例	送信	E,123,OFF<CR> //ウォッチドッグ監視を継続する場合 E,123,ON<CR> //ウォッチドッグ監視を停止する場合
	応答	OK,E,123,OFF<CR> //ウォッチドッグ監視を継続に設定した場合 OK,E,123,ON<CR> //ウォッチドッグ監視を停止に設定した場合

11. 1 コマンド(RY1 リレーの ON/OFF)

書式		1,[SQNO],[PRAM]<CR>
機能		RY1 リレーを ON/OFF します。
パラメータ設定範囲		ON 又は OFF
使用例	送信	1,123,ON<CR> //RY1 を ON する場合 1,123,OFF<CR> //RY1 を OFF する場合
	応答	OK,1,123,ON<CR> //RY1 を ON した場合 OK,1,123,OFF<CR> //RY1 を OFF した場合

12. 2 コマンド(RY2 リレーの ON/OFF)

書式		2,[SQNO],[PRAM]<CR>
機能		RY2 リレーを ON/OFF します。
パラメータ設定範囲		ON 又は OFF
使用例	送信	2,123,ON<CR> //RY2 を ON する場合 2,123,OFF<CR> //RY2 を OFF する場合
	応答	OK,2,123,ON<CR> //RY2 を ON した場合 OK,2,123,OFF<CR> //RY2 を OFF した場合

13. 5 コマンド(RY1 リレーの ON/OFF 状態取得)

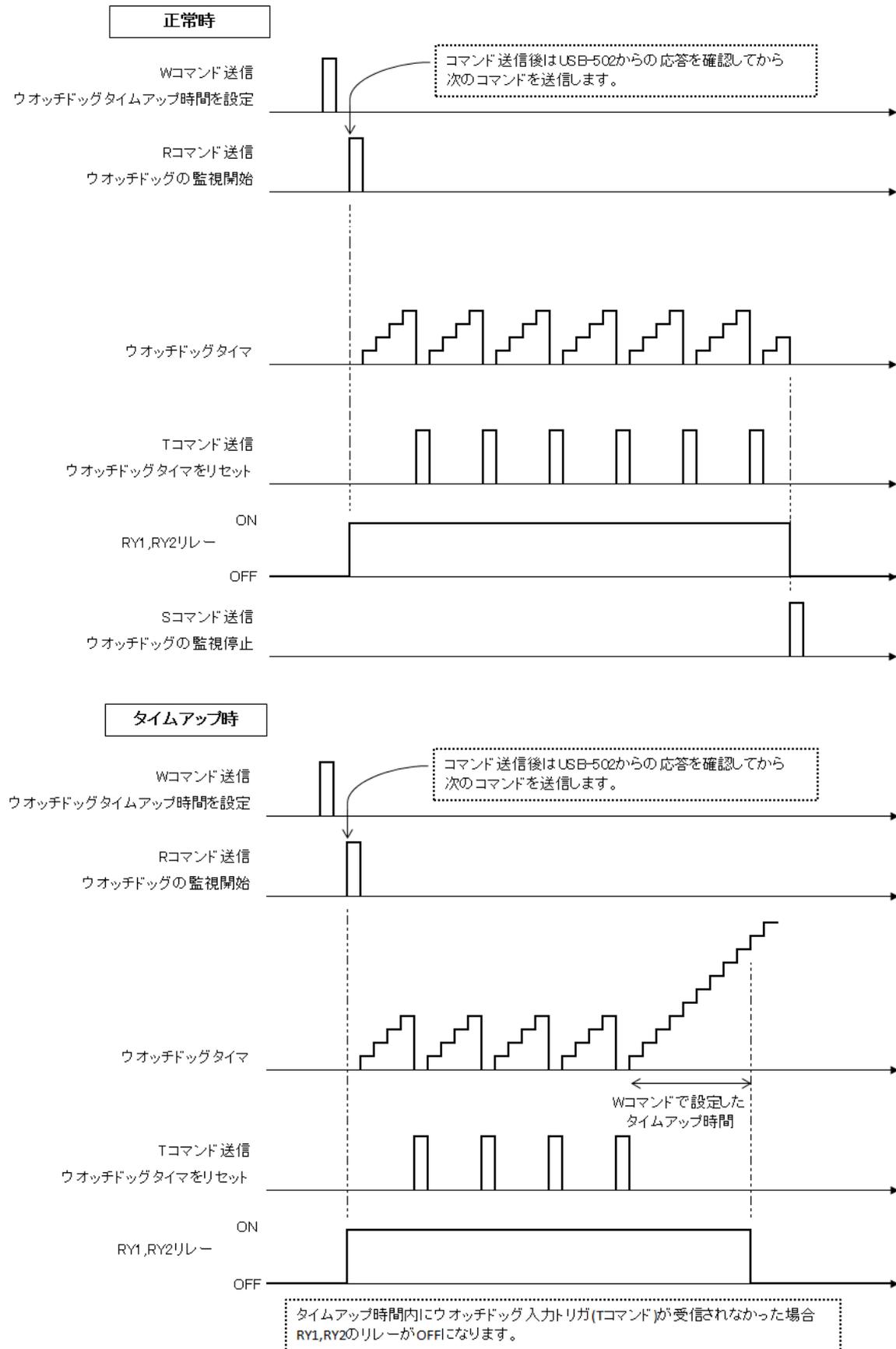
書式		5,[SQNO]<CR>
機能		RY1 リレーの ON/OFF コマンド(1 コマンド)の実行状態を応答します。 ※リレー接点側の経路をモニタした結果ではありません
使用例	送信	5,123<CR>
	応答	OK,5,123,ON<CR> //RY1 ON を実行中の場合 OK,5,123,OFF<CR> //RY1 OFF を実行中の場合

14. 6 コマンド(RY2 リレーの ON/OFF 状態取得)

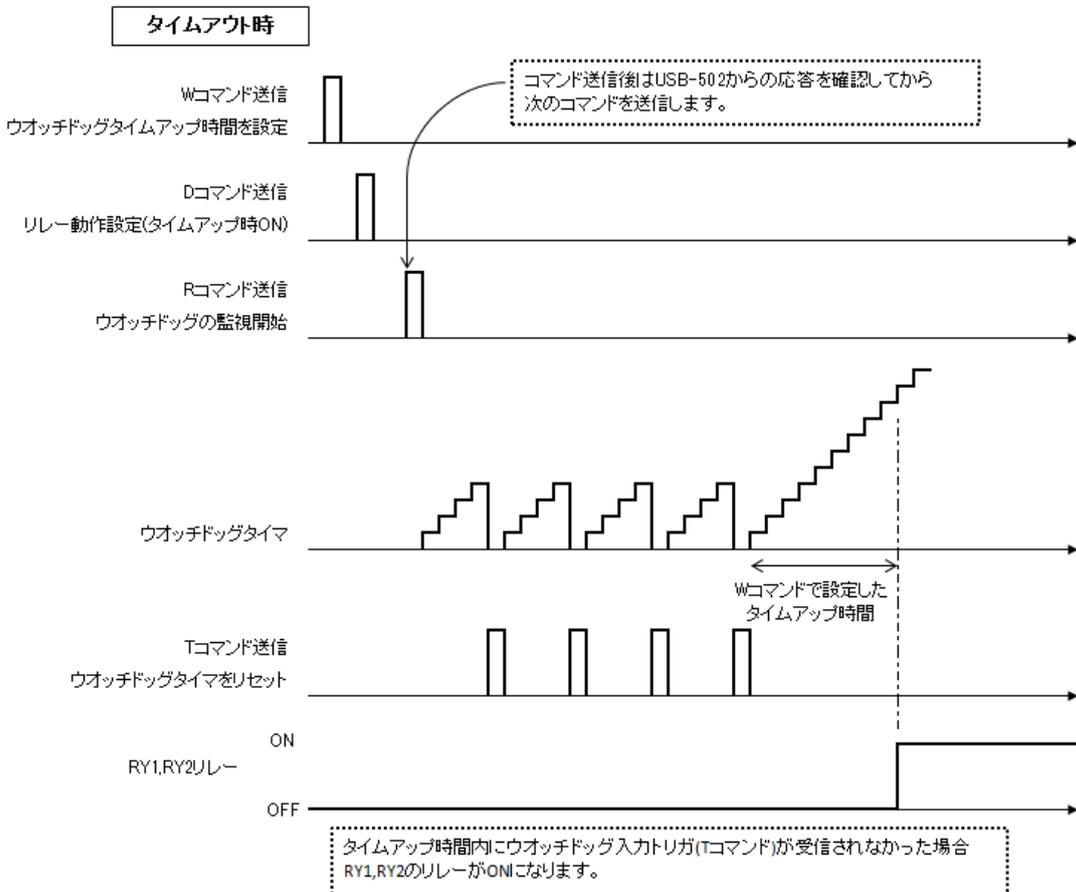
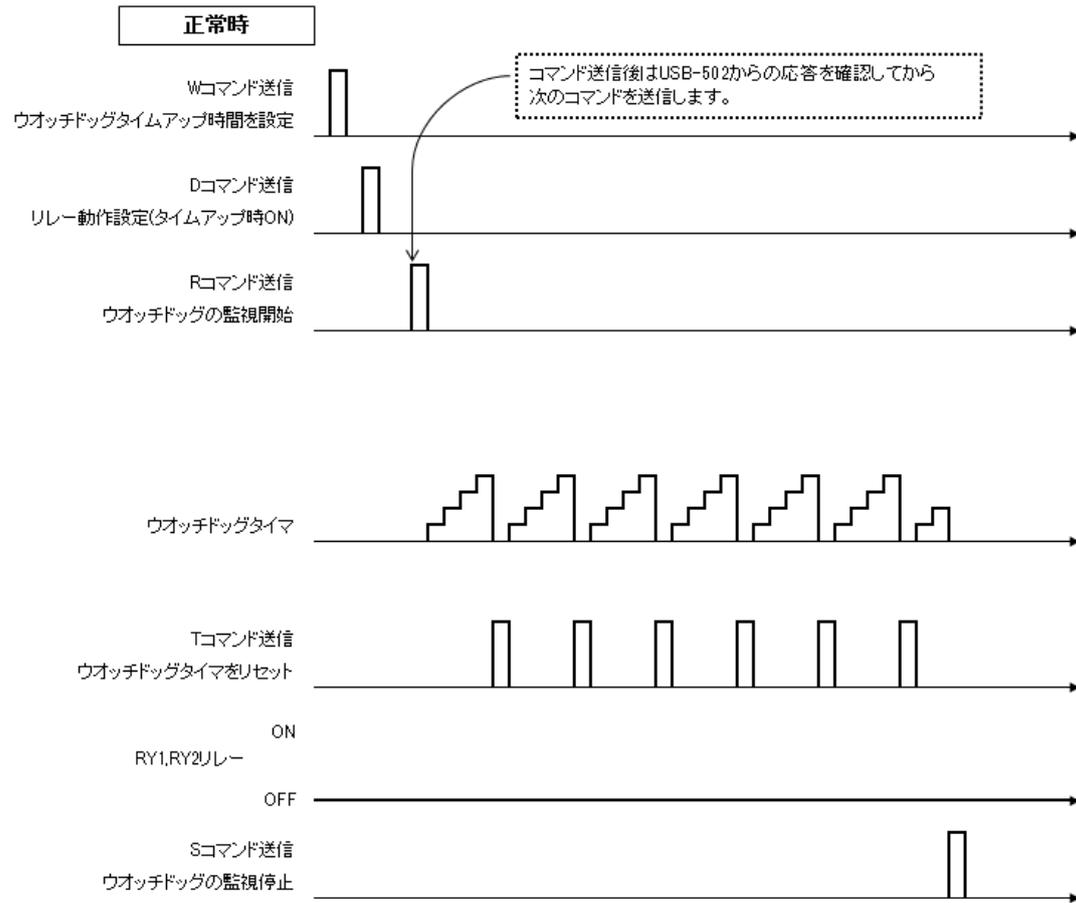
書式		6,[SQNO]<CR>
機能		RY2 リレーの ON/OFF コマンド(2 コマンド)の実行状態を応答します。 ※リレー接点側の経路をモニタした結果ではありません
使用例	送信	6,123<CR>
	応答	OK,6,123,ON<CR> //RY2 ON を実行中の場合 OK,6,123,OFF<CR> //RY2 OFF を実行中の場合

5.3. 動作チャート

【Rコマンドで監視、Dコマンドでタイムアップ時 OFF に設定している場合の動作チャート】



【Rコマンドで監視、Dコマンドでタイムアップ時 ON に設定している場合の動作チャート】



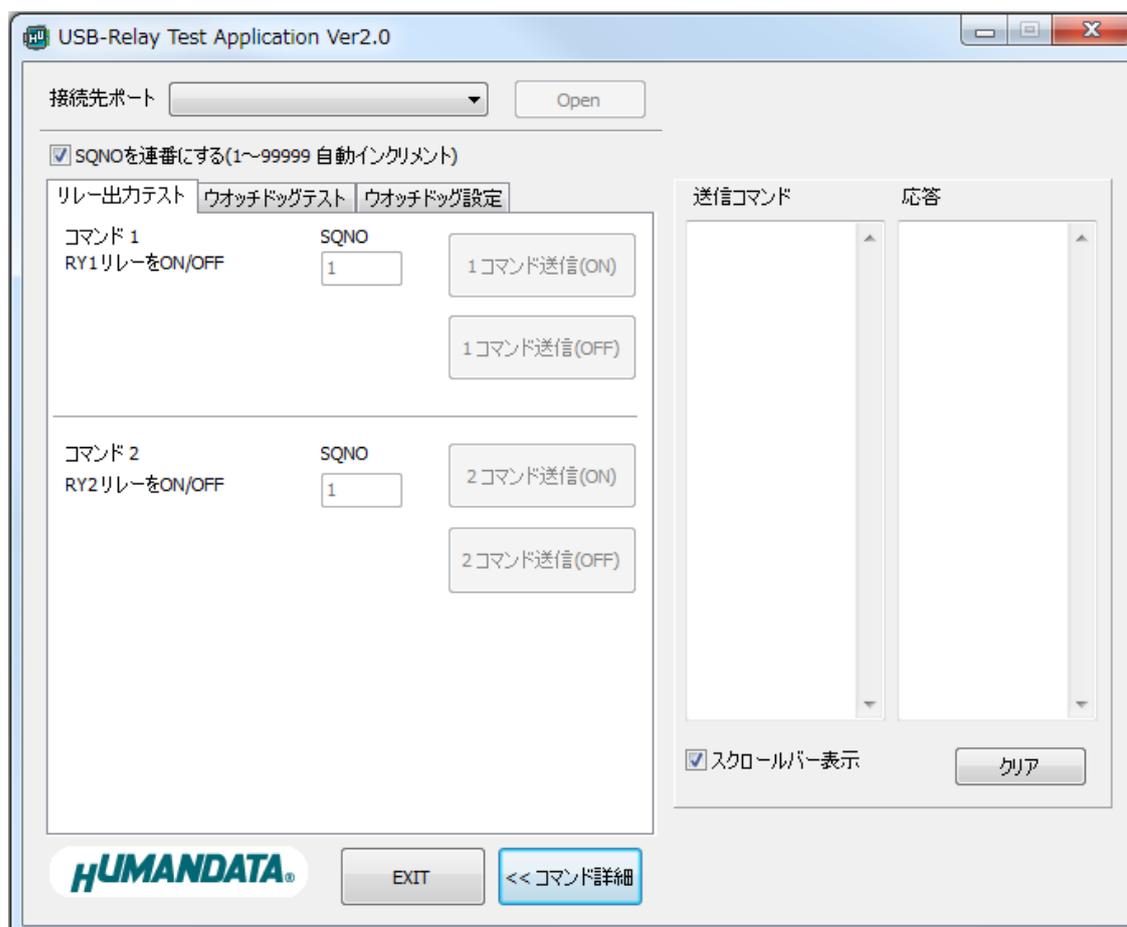
5.4. エラーコード一覧

制御コマンドに対し正常に処理ができなかった場合にエラーを返します。
エラーコードはエラーの内容によって決められています。

ER002	コマンドエラー	対応するコマンドがありません。 SQNO 文字数がオーバーしているか SQNO データがない場合もこのエラーが発生します。SQNO の最大文字数は 5 文字です。
	応答	ER002<CR>
ER003	パラメータ設定エラー	パラメータが設定範囲外になっているかパラメータデータがありません。
	応答	ER003<CR>
ER031	トリガ信号無効	ウォッチドッグの監視が停止している時にウォッチドッグ入力トリガ(T コマンド)を受信しました。
	応答	ER031<CR>

5.5. テストアプリケーションによる動作確認

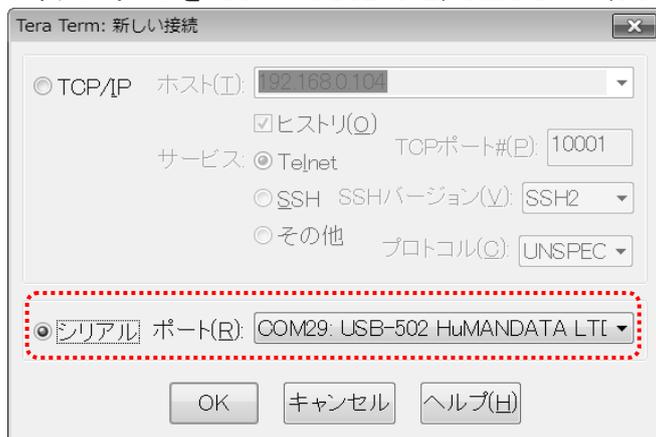
USB-Relay Test Application によりウォッチドッグ動作の確認やリレーの ON/OFF を制御することができます。このアプリケーションは、製品の資料ページからダウンロードすることができます。「7. サポートページ」の項を参照してください。



5.6. 通信ソフトウェアによるコマンド確認例 (Windows 編)

通信ソフトウェア(Tera Term)は、キーボードから入力した文字を接続先の端末に送信し、接続先の端末が送ってきた文字を表示する機能を持った Windows 用のターミナルソフトです。

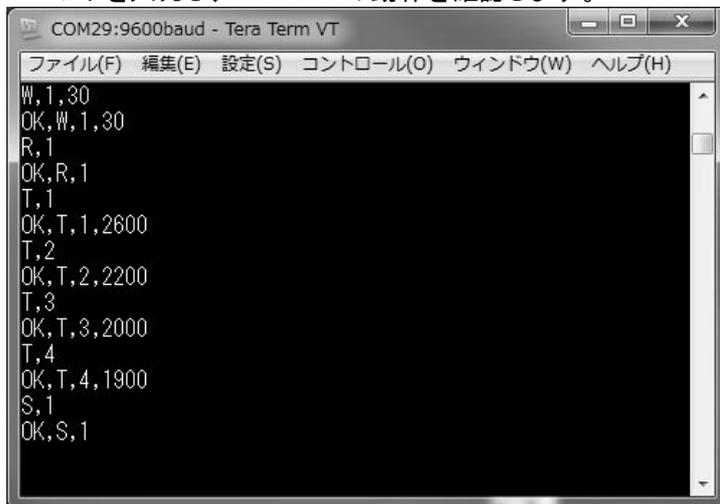
1. USB-502 を PC に接続します。Tera Term を開き”新しい接続”を選択します。
シリアルポートを”COM** : USB-502(HuMANDATA(COM**))”を選択し OK をクリックします。



2. “端末の設定”でローカリエコー(L)にチェックを入れ、キー入力が表示されるように設定し、OK をクリックします。



3. コマンドを入力し、USB-502 の動作を確認します。



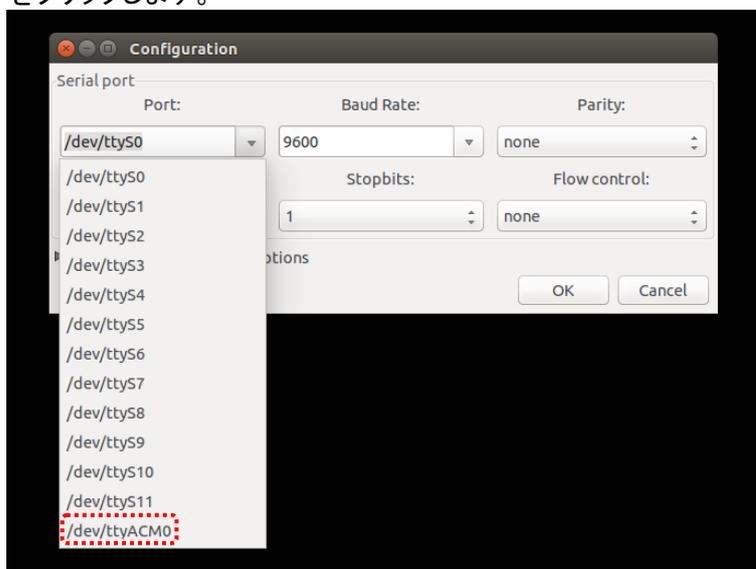
5.7. 通信ソフトウェアによるコマンド確認例 (Linux 編)

通信ソフトウェア(GtkTerm)は、キーボードから入力した文字を接続先の端末に送信し、接続先の端末が送ってきた文字を表示する機能を持った Linux 用のターミナルソフトです。Ubuntu 14.04 を使用した場合の例としてお示しします。

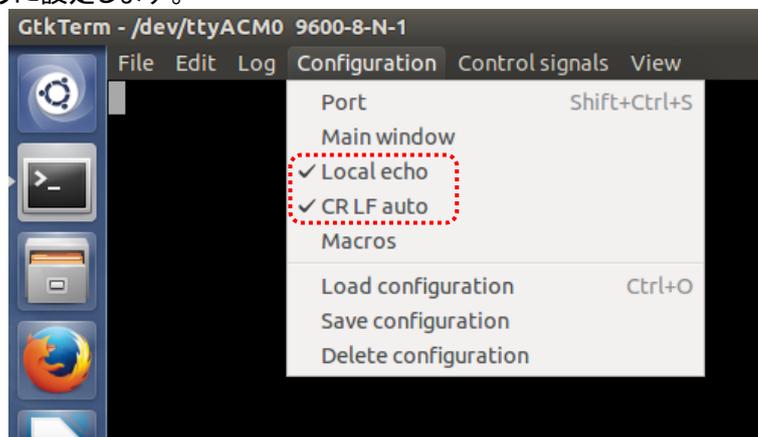
1. USB-502 を PC に接続し、dmesg コマンドを実行した結果を以下に示します。ドライバのインストールは不要でポート名は”ttyACM0”として認識されます。

```
[ 1503.381445] usb 2-2.1: USB disconnect, device number 6
[ 1507.580530] usb 2-2.1: new full-speed USB device number 7 using uhci_hcd
[ 1508.124697] usb 2-2.1: New USB device found, idVendor=0f87, idProduct=2012
[ 1508.124708] usb 2-2.1: New USB device strings: Mfr=1, Product=2, SerialNumber=0
[ 1508.124714] usb 2-2.1: Product: USB-502 HuMANDATA LTD.
[ 1508.124718] usb 2-2.1: Manufacturer: HuMANDATA LTD.
[ 1508.143752] cdc_acm 2-2.1:1.0: This device cannot do calls on its own. It is not a modem.
[ 1508.143796] cdc_acm 2-2.1:1.0: ttyACM0: USB ACM device
[ 1628.632179] systemd-hostnamed[5117]: Warning: nss-myhostname is not installed. Changing the local h
hdl@ubuntu:~$
```

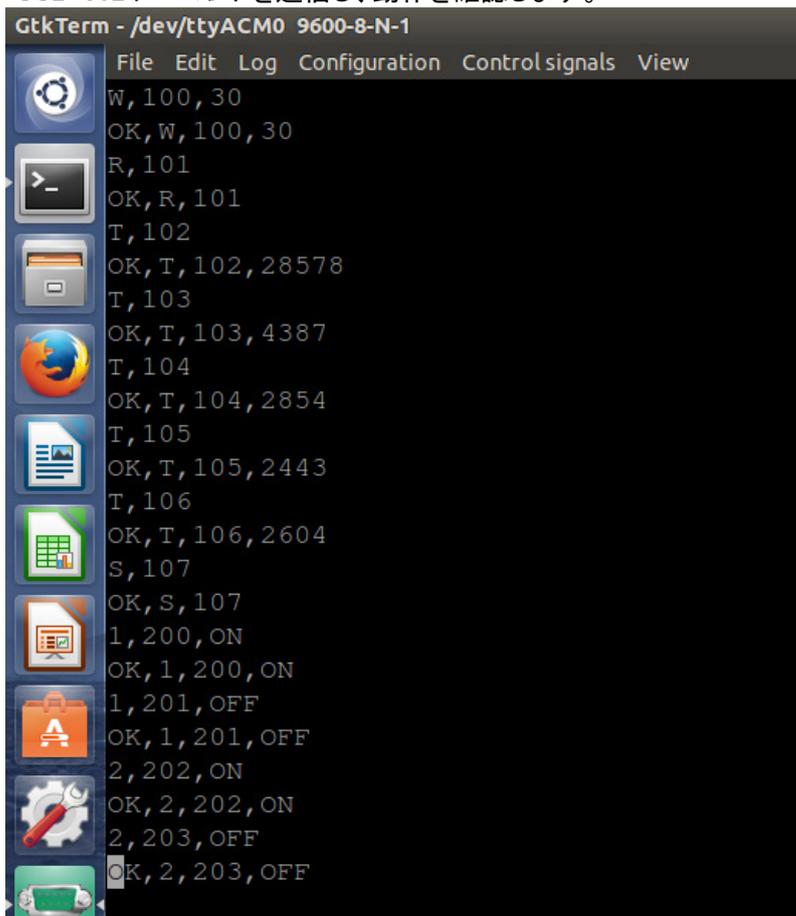
2. GtkTerm を開き、“Configuration > Port”をクリックします。ポート名”/dev/ttyACM0”を選択し、OK をクリックします。



3. “Configuration”の設定で Local echo と CR LF auto にチェックを入れ、キー入力が表示されるように設定します。



4. USB-502 にコマンドを送信し、動作を確認します。



The screenshot shows a terminal window titled "GtkTerm - /dev/ttyACM0 9600-8-N-1". The terminal displays a series of commands and their corresponding responses, indicating the successful execution of various operations on the USB-502 device. The commands and responses are as follows:

```
W, 100, 30
OK, W, 100, 30
R, 101
OK, R, 101
T, 102
OK, T, 102, 28578
T, 103
OK, T, 103, 4387
T, 104
OK, T, 104, 2854
T, 105
OK, T, 105, 2443
T, 106
OK, T, 106, 2604
S, 107
OK, S, 107
1, 200, ON
OK, 1, 200, ON
1, 201, OFF
OK, 1, 201, OFF
2, 202, ON
OK, 2, 202, ON
2, 203, OFF
OK, 2, 203, OFF
```

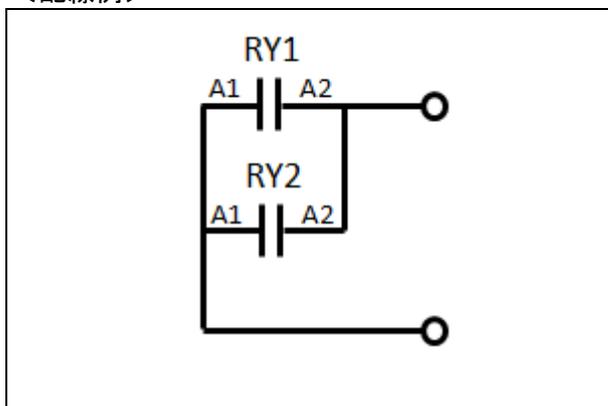
6. 使用例

6.1. RY1、RY2 の両方を使ってウォッチドッグ監視をする

[条件]

- ・RY1、RY2 の両方を使用する
- ・ウォッチドッグタイムアップ時間: 7 秒
- ・ウォッチドッグタイムアップ時にリレーを ON とする
- ・自動復帰動作: 有効
- ・自動復帰時間: 5 秒
- ・自動復帰回数: 2 回
- ・自動復帰回数到達後ウォッチドッグ監視を継続

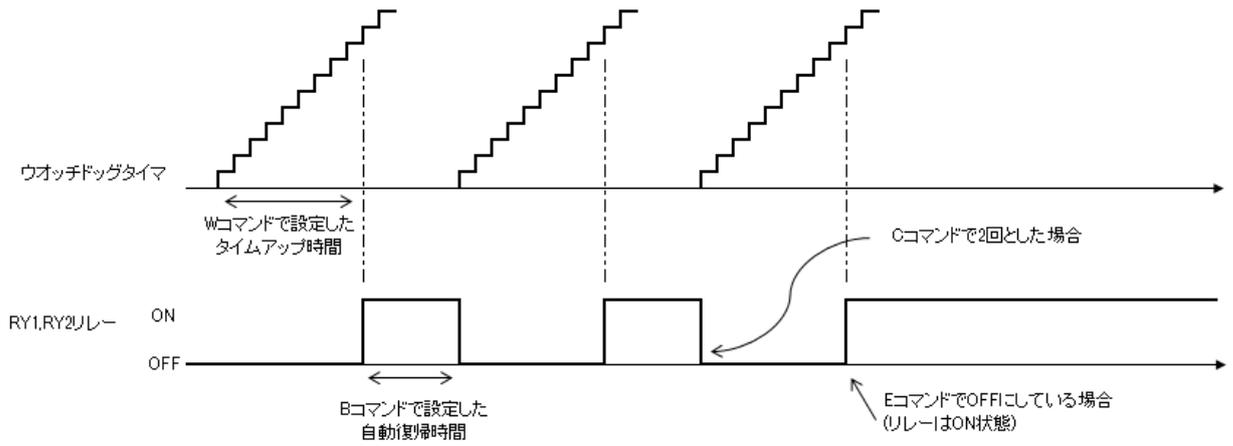
<配線例>



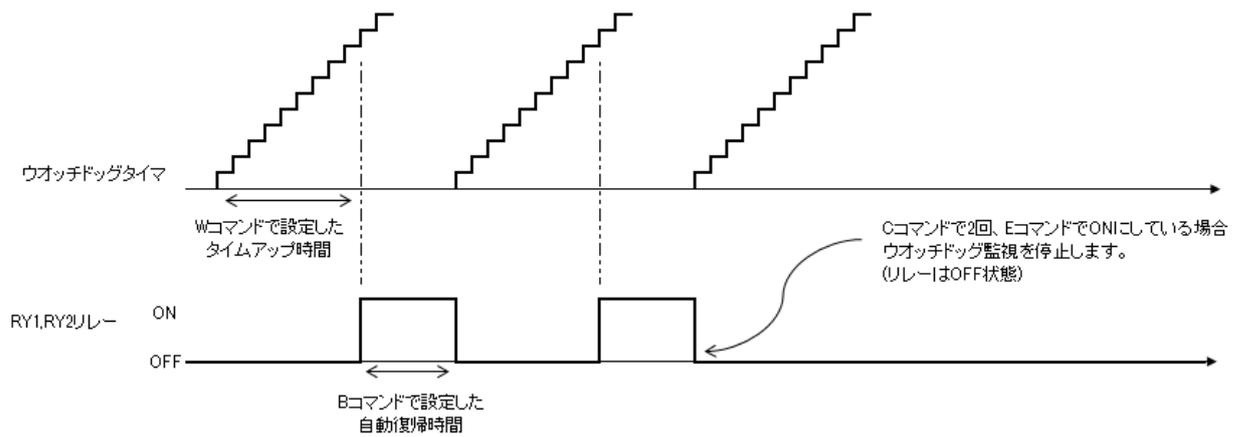
コマンドシーケンス

No	シーケンス	説明
1	S,100	ウォッチドッグ監視停止
2	1,101,OFF	RY1 リレーを OFF
3	2,102,OFF	RY2 リレーを OFF
4	(500ms のウェイト)	
5	W,103,70	ウォッチドッグタイムアップ時間: 7 秒
6	D,104,ON	ウォッチドッグタイムアップ時にリレーを ON とする
7	A,105,ON	自動復帰動作: 有効
8	B,106,50	自動復帰時間: 5 秒
9	C,107,2	自動復帰回数: 2 回
10	E,108,OFF	自動復帰回数到達後ウォッチドッグ監視を継続
11	R,109	ウォッチドッグ監視開始(RY1,2 動作)
12	T,110	ウォッチドッグ入力トリガ
13	T,111	ウォッチドッグ入力トリガ
14	...	
15	S,999	ウォッチドッグ監視停止

ウォッチドッグタイムアップ後の自動復帰動作



前項のコマンドシーケンス No 10 を “E,108,ON”にした場合は、自動復帰回数到達後にリレーが OFF になります

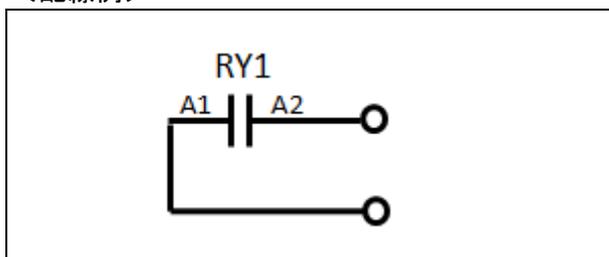


6.2. RY1 のみを使ってウォッチドッグ監視する

[条件]

- ・RY1 のみを使用する
- ・ウォッチドッグタイムアップ時間:7 秒
- ・ウォッチドッグタイムアップ時にリレーを OFF とする
- ・自動復帰動作:無効

<配線例>



コマンドシーケンス

No	シーケンス	説明
1	S,100	ウォッチドッグ監視停止
2	I,101,OFF	RY1 リレーを OFF
3	(500ms のウェイト)	
4	W,102,70	ウォッチドッグタイムアップ時間:7 秒
5	X,103	ウォッチドッグ監視開始(RY1 のみ動作)
6	T,104	ウォッチドッグ入力トリガ
7	T,105	ウォッチドッグ入力トリガ
8	...	
9	S,999	ウォッチドッグ監視停止

RY2 は、2 コマンドを使用して任意のタイミングで ON/OFF することができます。

7. サポートページ

改訂資料やその他参考資料は、必要に応じて各製品の資料ページに公開致します。

<https://www.hdl.co.jp/ftpdata/usb-502/index.html>
<https://www.fa.hdl.co.jp/jp/info-support.html>

- デバイスドライバ
- 外形寸法図
- テストアプリケーション

...等

また下記サポートページも合わせてご活用ください。

<https://www3.hdl.co.jp/spc/fa-top.html>

8. 添付資料

- 外形寸法図

9. お問い合わせについて

お問い合わせ時は、製品型番とシリアル番号を添えて下さるようお願い致します。

e-mail の場合は、SPC2@hdl.co.jp へご連絡ください。

または、当社ホームページに設置のお問い合わせフォームからお問い合わせください。

技術的な内容にお電話でご対応するのは困難な場合がございます。可能な限りメールなどをご利用くださるようご協力をお願いいたします。

USB Photo リレー(コンパクト)

USB-502
ユーザーズマニュアル

2018/03/13 Ver.1.0
2018/04/12 Ver.1.1

2024/04/15 Ver.1.2

有限会社ヒューマンデータ

〒567-0034
大阪府茨木市中穂積 1-2-10 茨木ビル

TEL :072-620-2002
FAX :072-620-2003
URL :<https://www.fa.hdl.co.jp> (Japan)
: <https://www.fa.hdl.co.jp/en/> (Global)
